

義太夫

義太夫協会会報 第 108 号

平成 31 年 1 月 1 日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒103-0023

東京都中央区日本橋本町 3-1-6

日本橋永谷ビル 210

Tel. 03 (6265) 1880

Fax. 03 (6265) 1881

<http://www.gidayu.or.jp>

改元の年の年頭に

義太夫協会会長 原道生

あけましておめでとうございます。本年も
よろしく願いいたします。

すでに使い古されてしまっているとの感も
否みきれない表現ではありますが、今年のお
正月は、「平成最後の、新年」と言われることが
多いのではないかと思います。

そして、一方、やがて春には公表されるこ
とになるはずの、次の新元号が施行されるよ
うになりますと、今度は、すべてが、「〇〇、最
初の、夏（秋・年の暮れ等々）」といった工合に
呼ばれるようになることが、一般的な現象と
なるに違いありません。

ですから、この二〇一九年という年は、私
たちにとって、一年のうちに、二つの元号が
存在し、それぞれのうちの最後や最初の事例

に次々と出合うという、平成生まれの方に
とっては全く初めての、それ以前の昭和・大
正、そして会員の中にも御存命かも知れない
明治生まれの方々の場合には、それぞれ、二
回目、三回目、四回目といった工合に、大変
珍しい体験をする年になるということになる
でしょう。

ところで、このように、その生涯を通じて、
元号の代替りに何回も遭遇するという事態に
ついて考えているうちに、少々唐突ではあり
ますが、浄瑠璃や歌舞伎でもお馴染みの菅原
道真が、清和天皇から醍醐天皇までの「五代
に出仕」し、優れた廷臣として善政を行ない、
人々の尊崇を受けていたという話に思い当た
るところがありました。

もっとも、現代の私たちは、勿論、天皇に
仕官する臣下ではありませんし、また、現実
の道真の果たした政治的業績に対する評価に

義太夫 2020

来年、2020 年 6 月、
義太夫協会は法人化
50 周年を迎えます。
節目の年に向けて、
各種企画進行中！
皆様のますますの
ご支援・ご協力をお
願い申し上げます。

Gidayu 2020



はら みちお 昭和十一
年、東京都生まれ。東京大
学大学院中退。横浜市立大
学助教授、明治大学文学部
教授を経て、同大学名誉教
授。瑞宝中綬章受章、日本
演劇学会河竹賞、角川源義
賞「文学研究部門」受賞。

もさまざまなものがあるようなので、理想化
された道真伝説上の諸事象をそのまま歴史的
事実として理解することは避けなければなり
ませんが、それでも、本行われる改元によ
って、「三代の出仕」に至ることになる昭和生
まれの私にとりましては、この一年が、伝承
中の道真がその実現に深く関与していたとさ
れるその「五代」にも劣らぬ、平和で良質の
文化の栄える一年となることを、全会員の皆
様方とともに、心からお祈りしたいと思っ
ている次第です。

◆訃報 豊澤幸治◆



長年にわたり、

女流義太夫演奏会への出演、箏・胡弓を含めた指導・育成に尽力した豊澤幸治（とよざわ こうじ）は、平成二十八年十二月二日に逝去いたしました。享年九二歳。（ご親族諸事情の為、平成三十年七月に

りとはほえんで下された。それから間もなくこの原稿の依頼があり私にしては二ツ返事でおひきうけした次第です。

豊澤幸治さんイヤ坂井敏子さんと申し上げた方がおなじみの深い方が多いのではないのでしょうか。実に温和で上品ななかに一本ピンと筋の通った芯の強いお方でした。まさに芸一筋で昭和を生きぬいたといっても過言ではないと思います。私が協会に入りたての頃、育成会の卒業生で合奏団が結成されており、その中に坂井敏子として君臨されており、私はこんなえらい方と同じ義太夫の道を志しているのだと誇りにさえ思えました。

いろいろなお仕事をご一緒させていただきました。ある時天地会があり、私が苦しむのを横目に太十の奥を楽しそうに語られていました。飯田橋のお宅へお稽古に伺うと、まづおいしいお茶をいただけるのがひそかな嬉しさでした。どこの国へいかれてもご当地のものを何でもおいしそうに召し上がって「又来たいわ」と好奇心も旺盛でした。ちなみにその時はほぼ全員体調をくずし後日大笑いとなりました。

床に伏せて大分たった頃お見舞が叶ったその時、お箏のテレビ番組の話題となり「私はまだまだ死ねないの」と後進への芸の伝承がおくれていると、頭の中は常に芸の箏で一杯だったのです。幸治さんおつかれ様でした。そしてありがとうございます。合掌

（竹本綾之助）

女流義太夫 本牧亭を聴く会
その十

十回目となる今回は、没後三十年となる竹本春駒の演奏を聴く会として、昨年七月三十日にお江戸日本橋亭にて開催されました。春駒は、東京都出身。明治三十九年、二世竹本春子太夫に入門し、大阪を拠点として活躍していました。門弟のちに養女となる竹本駒之助の結婚に伴い、昭和三五年に東京に居を移します。この会では、水野悠子氏の解説のあと昭和四四年に収録された『伊賀越道中双六』岡崎の段と『花上野誉碑』志度寺の段（録音日不明）の音源が披露されました。三味線は、いずれも鶴澤三生です。

当日は、初めて春駒の演奏に触れる方や当時を懐かしんで来られた方、駒之助を始めとする技芸員等で満席となりました。

その中で日本素義会の菅野昌行会長は、生前の春駒を知る数少ないお客様の一人。終演後にお話を伺いました。

今回の音源は、菅野氏が春駒に師事する十年程前のものだそうですが、春駒の語りは、ハルところはハルといった義太夫節の正統派で、節まわしが明確で内容がはっきりとわかり、聴いていて面白い。今聴いても新鮮で少しも古くささがない、まさに「今」を語っている浄瑠璃だ、とおっしゃいます。お稽古も太夫のイキで三味線を弾いて下さり、語りやすかったそうです。

幸治さんの思い出

めったにあけた事のない引出しから、なんと以前に訪れたニュー YORK のホテルでお茶を楽しんでおられる幸治先輩の写真がにつこ



「この会の制作を担うSEIBI工房では、古音源復刻保存推進会の活動の一環としてCD化し、皆様に頒布しております。聞き逃した方は、是非CDで、春駒の芸をお楽しみ下さい。」

南あわじ市名誉市民称号授
与式 及び 記念演奏会

昨年七月十八日、南あわじ市中央公民館におきまして、本協会理事で、文化功労者・人間国宝、竹本駒之助師の南あわじ市名誉市民称号授与式が行われました。守本憲弘市長から顕彰状と名誉市民章を受け取った駒之助師は、「故郷からこのような栄誉をいただき、身が引き締まる思いです。名誉市民の名に恥じぬよう、これからも芸道精進し、女流義太夫の発展のために身を尽くして参ります。」と述べられました。

続いて行われた記念演奏会では、『壺坂観音霊驗記』沢市内より山の段（三味線：鶴澤津賀花、ツレ：鶴澤駒清）を演奏させていただきました。（鶴澤津賀花）



代表者の発表の様子

文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業」（制作…有限会社古典空間）の学校巡演が全九校で行われ、竹本越京・竹本京之助・竹本寿々女、鶴澤三寿々・鶴澤賀寿・鶴澤弥々が参加しました。

『日高川』で始まった公演は解説コーナーへと続き、太夫と三味線弾きの使う道具がスクリー

文化庁学校巡演レポート

文化庁主催「文化芸術による子供の育成事業」（制作…有限会社古典空間）



ンに大写真になり、丁寧に紹介されます。その後、校歌斉唱に続いて、その校歌が義太夫に変身！という実験コーナーが。全く印象の変わった演奏に驚きの声が上がりました。

『車曳』の解説に続いて事前ワークショップで練習を積んだ代表者が舞台へ。本格的な衣装を着けた舞台姿と気合いの入った語り大きな拍手が送られました。

後半はまず全員で語りの体験、「大笑い」で盛り上がった後は舞台の一部を担う責任重大な「口上」。続いて最後の演目『車曳』。演奏の際にはいずれもイラストが映写され、親しみやすいと好評を博しました。

終始、児童・生徒のストレートな反応が感じられ、会場全体で義太夫を楽しめた、演奏者にとっても心温まる公演でした。

平成三十年の締めくくり

平成最期の年末の演奏会、恒例の『仮名手本忠臣蔵』では、たくさんのお客様にご来場いただき、誠にありがとうございました。

昨年は、初演から二七〇年という事で、十一月の日本橋亭公演より二ヶ月にわたり物語の始まり『大序』からお馴染みの七段目『一力茶屋の段』までを演奏いたしました。

なんとと言ってもめづらしかったことは、十二月公演で、落語と義太夫の両方をお聴きいただいたことでしょう。五段目に関わりのある人情噺『中村仲蔵』を演じられた古今亭志ん輔師匠は、かつて竹本朝重師のところ義

太夫のお稽古をされていたというご縁もあり、快く出演して下さいました。

本年も義太夫節をお楽しみいただけるよう、いろいろな企画で皆様のご来場をお待ちしております！
(公演部 竹本綾一)

第七回 中島勝祐創作賞

鶴澤津賀寿作曲の『那須与一弓矢誓』(なすのよいちゆみやのほまれ)が、第七回(二〇一八年)中島勝祐創作賞を受賞しました。

この賞は、公益財団法人日本伝統文化振興財団がおこなっている事業で、邦楽器による創作曲を対象とし、故中島勝祐氏の遺志を継ぎ、邦楽の伝統を踏まえた創作の中から広く応募作品を求め、優れた成果を示す作品を顕彰することを目的としています。

「那須与一弓矢誓」は二〇一五年初演、村尚也作詞。本曲と中島勝祐氏の曲が収められたCDも発売されました。

つがじゅの会

記録的な猛暑の続いた昨年七月三十一日、渋谷の伝承ホールにて、渋谷区主催の寺子屋提携公演として、「つがじゅの会」を催させていただきました。

会の趣旨は、師匠、竹本駒之助の芸を仮名書きに伝えたい、ということ、平仮名の会名にし、妹弟子の京之助に『絵本太功記』尼崎の段を語ってもらいました。



©山之上雅信

提携の条件として、寺子屋のワークショップを二クラス受け持ちました。両方、小学生のクラスでしたが、京之助の、子どもさん向けの教室で指導している経験が効を奏したか、生徒さんは彼女の力一杯に引きずられるように、大声を出してくれ、主催の方からも、このように子ども目線に立って指導してもらったのはじめて、と喜んでいただけました。当日も数人の子どものさんがみえて、大人しく聞いて下さいました。子どもさんに聞いてい

ただける、ということも、大切なことだと改めて感じました。

もう一本は、はじめての試みとして、三味線一挺だけで演奏するインストウルメンタル曲を、光秀の、『尼崎』前後の心理を追う、という形で作曲、演奏してみました。舞台監督さんが凝って、舞台上に桔梗の生花を置いて下さり、日ごろとは違うテイストの舞台を作れたかと思えます。が、なにしろ、はじめての実験だったので、お客様にどう受け止めていただけたかわからず、いろいろのご意見を頂戴しつつ、今後の何かの可能性の一つにできれば、と思います。
(鶴澤津賀寿)

はなつる会

昨年九月二日、大阪谷町三丁目からほど近いところにある山本能楽堂にて「第十三回はなつる会」が行われました。この会は豊竹呂太夫師の素人のお弟子さん方が日頃のお稽古の成果を発表するおさらい会で、総勢四一名が『尼ヶ崎』『義経千本桜道行』『寺子屋』などを、竹澤団吾さん、鶴澤清丈さんの三味線で語りました。この会の一コーナーをお借りして、はなつる会出身で昨年大阪でデビューしました豊竹呂秀・豊竹呂響と鶴澤駒清で女流義太夫の演奏(『裏門』『夕顔棚』)をさせていただきました。どのような反応なのかと緊張しましたが、義太夫愛好家の方々の熱意とあたたかさは全国共通なのだと感じました。

(鶴澤駒清)

「涙と笑い」

平成二六年より、浅草公会堂四階の和室にて、竹本越若と竹本越里師弟の勉強会を開催しております。第一回は「弁慶二題」と題して『御所桜堀川夜討』弁慶上使の段と『ひらかな盛衰記』辻法印の段を上演。第二回からは「涙と笑い」と題して、昨年は「涙と笑い」の四回目、すなわち全体で第五回の節目となりました。

「涙と笑い」のシリーズでは、越里が「涙」をテーマに時代物の切場を中心に勉強させていただき、越若はチャリ場など「笑い」をテーマとした作品を上演しております。昨年九月十七日の会では、越里が『絵本太功記』尼ヶ崎の段（三味線・鶴澤駒治）、越若が『妹背山婦女庭訓』鱧七上使の段（三味線・鶴澤賀寿）を演奏いたしました。畳敷きの会場で、足がしびれるのにもかかわらず、多くのお客様がお運びくださり、激励の声をいただきました。（竹本越里）

『泣いた赤鬼』に参加して

江戸糸あやつり「一糸座」さんとは古典の作品での学校巡演がご縁で、この『泣いた赤鬼』は古典以外では初めての参加となりました。音楽劇と銘打っており、全編生演奏の音楽とともに物語をすすめていきます。アコーディオンや打楽器での現代的な音楽があり、最後の部分だけ義太夫が入ります。おなじみ



です。また映像も効果的に感動のラストシーンへと繋げていきます。

これらのことが評価されたのか、今回は再演、そして「子どもと舞台芸術博覧会二〇一八」の参加です。七月三十一日、夏休みでもあり、たくさん子どもたちに観てもらえた。終演後のロビーでは赤鬼、青鬼が大人気。我先に写真を撮ろうと集まりましたが、中にはほんとうの鬼と勘違いしたのか、大泣きする子どもも。微笑ましい場面でした。『泣いた赤鬼』またたくさんさんのひとに観てもらいたいです。再再再演望んでやみません。

（鶴澤津賀榮）

の物語です。存知と思いますが、赤鬼が手紙を読む大事な場面を節付けから参加させてもらいました。人形だけでなく人間も共演、人形が人間役で人間が鬼役

ひとみ座乙女文楽
結成五十周年

（公財）現代人形劇センター 塚田千恵美

ひとみ座乙女文楽は昨年、結成五十周年を迎えました。ひとみ座はNHKテレビの「ひよっこりひょうたん島」でおなじみの人形劇団で、乙女文楽は実はこの人気番組の最後に旗揚げしたのでした。当時のメンバーは、現代人形劇をつくる上で、もっと古典を学ばなくてはと考えたと言います。創造のための伝統、でした。

乙女文楽は大正末に文楽から派生したひとり遣いの人形浄瑠璃。ひとみ座の師匠は桐竹智恵子師です。初期から活躍し、戦後は大阪から神奈川県茅ヶ崎に転居して公演を続けられていました。先輩達が、洗練を極めた三人遣いとも趣の異なる乙女文楽に可能性を感じ、門を叩いたのが一九六七年。翌年には、浅草すみだ劇場で「義経千本桜 道行初音旅」でスタートを切りました。昨年はそこから数えて五十年になります。

女流義太夫と乙女文楽のご縁は深く、智恵子師はその昔は竹本越道師とも一座されたとのこと。ひとみ座は結成時から竹本素八師にお世話になりました。

私が乙女文楽を運営する現代人形劇センターに参加したのが三十年前。すでに智恵子師は一座を解散し、ひとみ座や地元高校での指導に中心を移していました。その印象は芸一筋、そして僭越な言いながら、愛嬌溢れ



る女芸人の色気を漂わせていました。芸には厳しかったですが、役の気持ちから説き起こす、きめ細かいなさり方でした。弟子たちのなよりの幸福は、智恵子師の溢れる人形への情熱を一身に浴びる稀な機会を得たことではなかったかと、今にして思います。その師も十年前に亡くなり、現在では文楽の桐竹勘十郎師に熱心にご指導いただき、第二世代が現役の中心となっています。ひとみ座に入団してくる若手も次々と加わり、第一世代はといえば八十歳を越える三人が健在で指導にあたる、というたいへん嬉しい日々を迎えています。現在総勢十八人。昨年は記念公演を、新

レパートリー『奥州安達原』袖萩祭文の段で、東京、川崎の二都市で行うことができました。女流義太夫の方々には、この記念公演はじめ各公演にご出演頂き、竹本越孝師、鶴澤寛也師には義太夫節のご指導までお力添え頂いています。おかげさまで最近では、女性の演者ならではの成果を認めてくださる声が少しずつ届くようになりました。今後はいよいよ、結成時の先輩たちの志と、智恵子師の情熱を体と心に刻んで、観る人に共感される「同時代演劇としての人形浄瑠璃」をめざしたいと、密かな野望を抱いているところです。

神楽坂まち舞台

大江戸めぐり二〇一八

昨年十一月十日、十一日と神楽坂で、「粋でスタイリッシュな伝統芸能との出会い」とのコンセプトのもと、賑やかに伝統芸能のイベントが行われました。(主催：アーツカウンシル東京／NPO法人 粋なまちづくり倶楽部、制作：古典空間)

今回は当協会より、十一日の本祭に竹本越孝、鶴澤寛也が出演し、簡単なお話と短い曲を十五分ほど演奏いたしました。

神楽坂の真ん中、毘沙門天善國寺様境内の特設舞台のまわりには、早くからたくさんのお客様がお集まりで、女流義太夫・講談(神田鯉栄)・薩摩琵琶(琵琶デュオ)・浪曲(玉川奈々福、沢村豊子)の四つの芸能を続けて約一時間お楽しみいただきました。



司会は神楽坂の老舗履物屋「助六」の粋なご主人石井様。そしてお客様の中には、協会定例公演で見かけするお顔が何人も…。

また三クルの演奏を複数回聴いて下さった方々も多数いらしたとのことで、ありがたいことでした。

これからもこのような楽しい催しが続いていきますよう、心より願っております。

(鶴澤寛也)

丸三ハシモト株式会社会長 橋本圭祐さんが無形文化財 選定保存技術保持者に認定

二〇一八年七月、文化庁における文化審議会は、文化財の保存のための選定保存技術の保持者として、邦楽器系製作の橋本圭祐さんを認定するよう文部科学相に答申しました。橋本さんは邦楽器系製造会社、丸三ハシモト株式会社の三代目。現在は会長を務めておら



橋本圭祐さん（右から二番目）、家族と文化庁長官と共に

れ、先代の故・太雄さんに続いての認定となりました。

邦楽系の糸製作については、蚕の繭から糸を作る技術を継承している「木之本町邦楽器原系製造保存会」が一九九一年、選定保存技術の保存団体に認定されており、今回の認定により現在は生糸から邦楽器系に仕上がるまでの全工程が選定保存技術となっています。

「先代の橋本太雄も頂いたこの認定書が四〇年ほどの歳月を超え再び次の世代に引き継いだことを大変光栄に思います。」「今後益々邦楽の裏方として糸づくりに徹し、皆様のお役に立てるように日々精進して参りたいと存じます。」とは御本人のコメント（丸三ハシモト株式会社ホームページより）。

我々が日頃使用する「浄るり糸」などの和楽器系の製造工程には多くの職人の技術が織り込まれており、現社長の英宗さんを始めとする職人の方々にその確かな技術が受け継がれていることを、とても頼もしく思います。

（鶴澤三寿々）

連載 名優と義太夫節

【第一回】初代中村吉右衛門

歌舞伎俳優と義太夫節のエピソードを折々ご紹介したいと思う。第一回は義太夫狂言を得意とした初代中村吉右衛門。

先祖に『伽羅先代萩』や『恋娘昔八丈』などを書いた松貫四を持つ。父の三代中村歌六は、大阪御霊神社境内の首振り芝居（子供俳優が義太夫節に合わせてしぐさだけ演じる）に出演し、幼少より耳で義太夫節の間を会得した。十一歳で初舞台を勤めた吉右衛門も子供芝居で活躍したが、十四歳ごろ大阪中座で松王を演じた折、竹本撰津大掾が見物してとても気に入った。千種楽までずっと席を買い切つて見物してくれたという。播磨屋さんは二見のお師匠はん（二見金助＝撰津大掾）に可愛がられたので訛りまへんな」と文楽の太夫からも一目置かれた。

吉右衛門は自伝で、義太夫節は野澤悟助に習ったと書いているが、八代竹本綱太夫はその著書の中で吉右衛門のセリフの技巧について、天分に恵まれ工夫もしただろうが、基本となる口伝を撰津大掾あたりから学んだのではないか、『河内山』の「馬鹿め」の笑いは、引く息と吐く息の両方を使っている高度な技術で、震わすようなセリフの抑揚についても、どちらかというと吐の強い方ではないので、

独特な間を工夫されたのだろう：と分析している。綱太夫は吉右衛門演じる『盛綱』にあらこれ、東京公演のおりに豊澤松太郎に稽古を願いだしたほどであった。

吉右衛門の日記には、おりおりに聴いた芸の感想が書かれている。七代豊竹駒太夫の『酒屋』を「大好きな駒太夫：實に實に良かった：全く二見のお祖父さんの様な處もあり、第一に品がよく：しつとりと讀んで、おそののサワリ等場當りもなし、手紙の件んといい、無駄な所はさらさらというてしまいい、結構であった。」「先代萩」を「大變に良かった。相變らず二見金之助師の通りで品があつてよかった」と大絶賛である。また女流の豊竹小仙も認めていて、「晩に小仙を瓢亭にて聞く。中々うまい。港町と鮎屋」と記し、その二日後には「今日も又瓢亭にて小仙の八陣を聞く。うまい物」とある。『俊寛』の役づくりのために、二代豊竹古靱太夫と四代鶴澤清六を招いて演奏をしてもらつたりしているが、義太夫節の稽古については、歌舞伎のセリフと義太夫節のコトバは違ふのであるから、よくよく注意して稽古をするべきであると記している。趣味の俳句には「立秋や箱根で逢ひし土佐太夫」という句が遺る。

公演の稽古中は竹本の傍に座つて一緒に語り、ときには駄目出しをした。吉右衛門付きの豊竹岡太夫は、「小唄のようにずっと隣で唄われては気が散つてやつていられません。一

度本式に語ってご覧なさいと言いたくなり「す」とぼやいていたという。『俊寛』床本の「手をつき頭をさげうづくまる」の部分に、「小ヲドリスルガ心地ニテ」と書き込みがある。おそらく吉右衛門の注文を書き加えたものである。舞台で共演者に小言を言うこともあり、『封印切』で岡太夫の代役をした太夫の「焼き場の土と…」が気に入らず、「いけねえ、いけねえ、太夫…」と言いながら演じていたという。「我らの芝居は六代目（尾上菊五郎）の出囃子の如くある故、良き太夫が二位ありて良いと思う…少々位の物質は聞いてやっても、床の良いのを捨てること」と書いている。昭和十八年に、吉右衛門付きの二代竹本太夫が『筆法伝授』を語った後に逝去した。「二座には大切な人。傳授場が名残であった」として、「傳授場を名残に年も暮るるかな」と詠んでいる。

元旦、初日の出とともに目を覚まし、用意しておいた赤い襦袢に着替えて、「オギヤア、オギヤア」と赤子のように泣くのが吉例で、これは摂津大掾夫人から勧められた行事だそうである。

(歌舞伎義太夫太夫 竹本葵太夫)

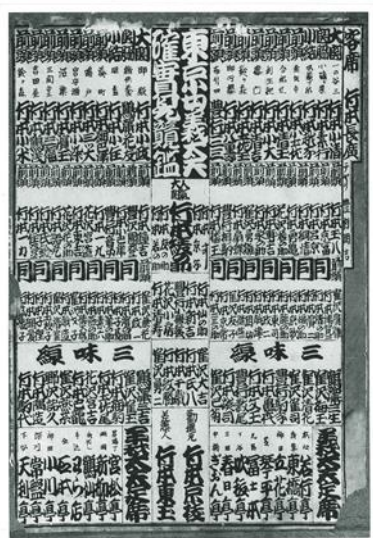


有吉佐和子と丸川賀世子

—二人の作家の友情—

この冬、徳島県立文学書道館（徳島市中前川町二―二二―一）では、同じ年に生まれた二人の作家を取り上げた文学特別展が開催されています。

徳島出身の丸川賀世子さんは、技芸に生きた人々を題材とした小説をいくつか残していますが、徳島出身で明治期に東京の寄席にも出演していた竹本小米を描いた「娘義太夫盛衰記 小米一代」は、一九八四年から八五年にかけて、新聞小説として徳島新聞夕刊に一回にわたり連載されました。今回の特別展での小説紹介コーナーでは、竹本小米の紹介もあり、小米の載った明治三十年の女義番付（複写）が展示されております。この番付（左図）は文学書道館からお問い合わせいただいた義太夫協会が、画像資料の提供という形で協力させていただきました。会期は二月八日（金）迄です。



【訃報】

鶴澤寛治師匠

人形浄瑠璃文楽の三味線、人間国宝の鶴澤寛治（つるざわかんじ）師匠が、昨年九月五日、八九歳で逝去されました。

先代鶴澤寛治師匠の御子息として子供の頃から研鑽を積まれ、一九九七年には親子二代の人間国宝に認定、二〇〇一年に七代目寛治を襲名なさいました。

八月七日までの夏休み文楽特別公演（大阪・国立文楽劇場）で『新版歌祭文』野崎村の段を千秋楽までおつとめの後、体調を崩し入院されたそうです。

ご葬儀は金光教玉水記念館でしめやかに執り行われました。くしくもその日は最後の舞台よりひと月の九月七日で、本当に三味線一筋のお見事なご一生でした。

生前は女流義太夫の稽古もして下さり、お世話になった者も多々おります。

心よりご冥福をお祈りいたします。合掌

■協会・正会員の主な動き■

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

七月二十日（金）お江戸日本橋亭

平成三十年七月～十二月

八月一六日(木) 国立演芸場 *若手勉強会
 九月二十日(木) お江戸日本橋亭
 十月二十日(土) お江戸日本橋亭
 十一月二十日(火) お江戸日本橋亭
 十二月一五日(土) 紀尾井小ホール
 「本牧亭を聴く会」(お話と音源再生)
 七月三十日(月) お江戸日本橋亭

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演(*印)

「じよぎ」 お江戸上野広小路亭 七月一・二日、九月一・二日、十一月一・二日
 「ぎだゆう座」 お江戸上野広小路亭 八月一・二日、十月一・二日、十二月一・二日
 「つがじゆの会」 七月三一日(火) 渋谷区文化総合センター大和田伝承ホール
 「若手邦楽聴き比べ」 八月二一日、二五日 東京都美術館講堂*
 「第十二回花のように香れ 女流義太夫」 九月八日(土) 蕨市立文化ホールくるる*
 「女流義太夫涙と笑い4」 九月一七日(月・祝) 浅草公会堂第二集会室
 「第十一回竹本土佐恵の会」 十一月三日(土・祝) 内幸町ホール

【普及】

義太夫協会主催教室

◆義太夫一日体験教室

八月二五日(土) 芸能花伝舎
 講師 竹本土佐子・鶴澤駒治

文化庁委託事業義太夫教室

◆第七十期義太夫教室 実践コース(前期)

九月六日、十二月二十日(週一・木曜)
 豊川稲荷文化会館

依頼事業

◆学校巡回公演・文化庁主催

「芸術文化による子供の育成事業」巡回公演事業一(制作:古典空間)
 「語ってみよう! 義太夫節!」

事前ワークショップと本公演・全九校

《本公演》

九月二五日(火) 越谷市立越谷小学校
 二七日(木) 深谷市立川本南小学校
 十月二七日(土) 北本市立中丸小学校
 二九日(月) 秩父市立南小学校
 三十日(火) 白河市立白河南中学校
 三十一日(水) 須賀川市立岩瀬中学校
 十一月一日(木) 福島市立清明小学校
 二日(金) いわき市藤間中学校
 十九日(月) さいたま市立本太中学校

【その他事業】

◆床本・稽古本即売会 八月四日(土) 豊川稲荷文化会館

◆祖先祭 十月一三日(土) 十三時 回向院

【運営】

平成三十年度第三回理事会
 十一月五日(月) 日本橋永谷ビル会議室

【放送・放映】

◆NHK FMラジオ「邦楽のひととき」

七月十一日(水)『迎駕籠野中井戸』聚楽町の段 浄瑠璃・竹本土佐恵 三味線・鶴澤駒清

◆NHK Eテレ

十二月八日(土)

第四五回NHK古典芸能鑑賞会

『傾城恋飛脚』新口村の段

浄瑠璃・竹本駒之助 三味線・鶴澤津賀寿

■今後の協会・正会員の予定■

平成三一年一月、六月

【公演】

義太夫協会／義太夫節保存会主催公演

「女流義太夫演奏会」

一月二十日(日) お江戸日本橋亭

二月二一日(木) 国立演芸場

※第三八回伝承者研修発表会

三月二十日(水) お江戸日本橋亭

四月二十日(土) お江戸日本橋亭

五月一九日(日) 紀尾井小ホール

六月二十日(木) お江戸日本橋亭

正会員主催公演(協会後援分)

依頼公演・協力公演(*印)

「ぎだゆう座」 お江戸上野広小路亭 二月

一・二日、四月一・二日、六月一・二日

「じよぎ」 お江戸上野広小路亭 三月一・

2019年女流義太夫演奏会 公演予定		
日 時	会場	開演時間
1月20日(日)	お江戸日本橋亭	13時30分
2月21日(木)	国立演芸場	18時30分
3月20日(水)	お江戸日本橋亭	18時30分
4月20日(土)	お江戸日本橋亭	13時30分
5月19日(日)	紀尾井小ホール	13時30分
6月20日(木)	お江戸日本橋亭	19時
7月20日(土)	お江戸日本橋亭	13時30分
8月19日(月)	国立演芸場	19時
9月20日(金)	お江戸日本橋亭	19時
10月20日(日)	お江戸日本橋亭	13時30分
11月20日(水)	お江戸日本橋亭	19時
12月14日(土)	紀尾井小ホール	13時30分

*4月以降夜公演の開演時間が19時となります。

二日、五月一・二日

「第五回 弓弦葉の会」一月一三日(日) 紀尾井小ホール

「第三回瑠璃の会」三月二日(土) 大阪・文楽劇場小ホール

「第四回邦楽演奏会」三月三十日(土) 国立劇場小劇場*

「女流義太夫スペシャルライブ Vol.9」二月九日(土)・十日(日) 神楽坂ザ・グリー

「第十七回はなやぐらの会」四月七日(日) 紀尾井小ホール

「第二回女流義太夫と上方舞」四月二三日(火) 橋楽亭

【普及】

義太夫協会主催教室

◆義太夫・三味線一日体験教室

二月十日(日) 芸能花伝舎

講師 竹本越若・鶴澤弥吉

文化庁委託事業義太夫教室

◆第七一期義太夫教室 実践コース(後期)

一月十日～三月二日(各土曜日)

豊川稲荷文化会館

講師 竹本土佐子・竹本越孝・鶴澤駒治

*第七一期卒業発表会・OB演奏会

三月十六日(土) 深川江戸資料館

■寄付・寄贈■

平成三十年七月～十二月
左記のご寄付ご寄贈を頂戴いたしました。誠に有難うございました。

石山岩男様 一万円

日本素義会様 五万円

ぎだゆう座の節分

ぎだゆう座二月公演「親子の別れ」二月一日(金)・二日(土) 一九時、お江戸上野広小路亭
終演後に豆まきを行います！
にぎにぎしくご来場の程、お願い申し上げます。

NHK大河ドラマ

「いだてん」出演

「いだてん」東京オリムピック噺」
第一回放送(一月六日)に鶴澤三寿々が出演(予定)。群衆の中に混ざって流したり踊り地を演奏したりしていますので、探してみてください。

ぜひご覧ください！



広告募集！

本会報に掲載する広告を募集しております。一段一万円、半段五千円です。

義太夫協会会員募集！

義太夫協会主催公演の入場料が割引になるサポーターシステム(賛助会員)は常時会員募集中です。

※詳しくは義太夫協会までお問い合わせください。

会報編集委員／鶴澤寛也・竹本佳之助
鶴澤賀寿・竹本駒佳・竹本越里

酒処
押上文庫

〒131-0045
東京都墨田区押上3-10-9
Tokyo Skytreeから徒歩8分!
TEL: 03-3617-7471
E-mail: oshiagebunco@gmail.com

＊＊義太夫協会音源シリーズ＊＊
義太夫協会記録音源復刻
オンデマンドCDラインナップ
好評発売中！

●壺坂観音霊験記 沢市内より壺坂寺の段 ●新版歌祭文 野崎村の段 ●絵本太功記 尼ヶ崎の段 ●御所桜堀川夜討 弁慶上使の段／伊賀越道中 双六 千本松原の段 ●生写朝顔話 宿屋より大井川の段 ●艶容女舞衣 酒屋の段 ●義経千本桜 鮎屋の段 ●近頃河原達引 堀川猿廻しの段 ●ひらかな盛衰記 松右衛門内の段 ●伊賀越道中 双六 岡崎の段／花上野誉碑 志度寺の段 ●伊勢音頭恋寝刃 油屋の段

オンデマンド(受注生産方式)CD-R 盤
定価 1,500 円(税込) 送料等別

＊詳しくは義太夫協会へお問い合わせ下さい

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、
制作修理 その他、各流三味線及び付属品の
御注文承ります。

きむら

〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687
kimura-wanoshirabe@nifty.com

料理

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂四―二―一
TEL/FAX 03(三三六〇)五〇二二

謹 賀 新 年

あけましておめでとうございます

日 本 素 義 会

第110回 2019年5月11日(土)開催
新加入 大歓迎！ふるってご参加ください
詳細は菅野昌行まで

永谷 謹賀新年

お江戸上野広小路亭



お江戸日本橋亭



お江戸両国亭



新宿永谷ホール



永谷商事株式会社 代表取締役

永谷浩司

〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1-20-1 0422-21-1796 <http://www.ntgp.co.jp/engei/>



地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

取締役会長	渡辺 康成
代表取締役	渡辺 貞穂
常務取締役	高山 早苗

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684